

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 51週 > 感染性胃腸炎、水痘 - 定点当たり報告数は12週連続で増加している / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 感染性胃腸炎 > 第51週の全国定点からの報告総数は45,606(定点当たり報告数15.11)
< 細菌性赤痢 > 都道府県別報告数地図



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 - インフルエンザ / 感染性胃腸炎



速報
P.6-7

仙台市における12月中旬のA(H3)型インフルエンザウイルスの分離



海外感染症情報
P.8

ガボンのエボラ出血熱流行 - 更新 / アライグマの回虫による脳炎



感染症の話
P.9-13

ペスト
腸内細菌科に属する通性嫌気性のグラム陰性桿菌 *Yersinia pestis* に起因する全身性の侵襲性感染症で、ノミやエアロゾルを介して伝播する



読者のコーナー
P.14



グラフ総覧(51週)
P.15-21



51週のデータ
P.22-29



発生動向総覧

第51週コメント 12月27日集計分

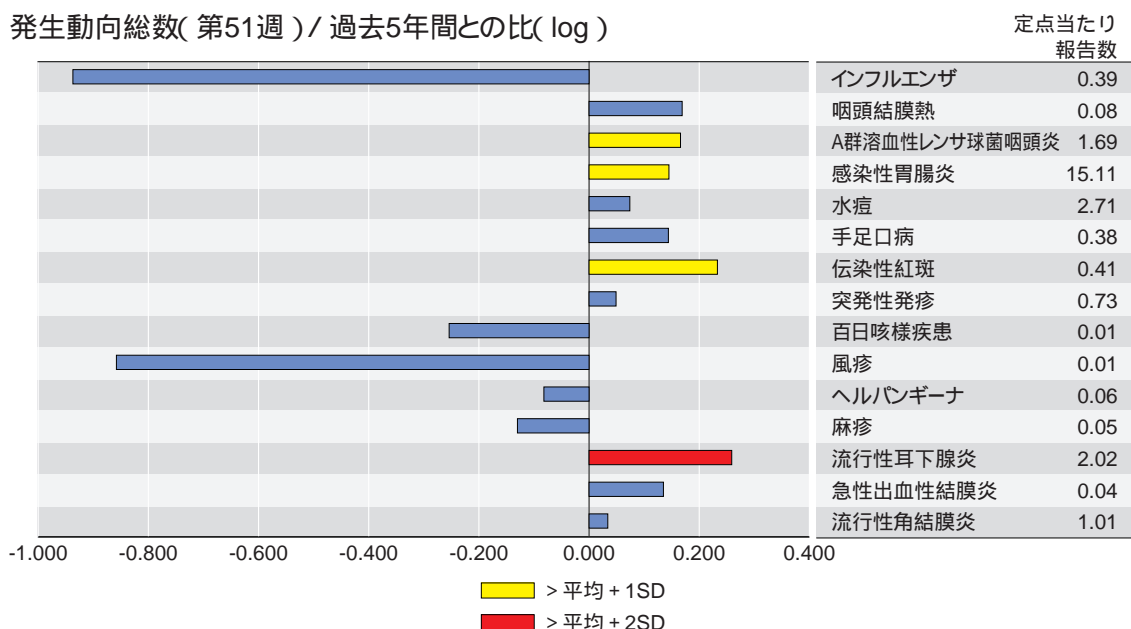
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: 細菌性赤痢32例(推定感染地: 国内20例、不明2例、ベトナム4例、中国、バングラデシュ各2例、フィリピン、インドネシア各1例。国内感染例の都道府県別報告数は、4ページ「注目すべき感染症」を参照。) パラチフス1例(推定感染地: インドまたはタイ)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症8例
- 4類感染症: アメーバ赤痢6例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例(孤発性)、ジアルジア症2例、ツツガムシ病9例(うち鹿児島県からの報告3例。集計に間に合わなかった追加報告例を含めると、同県から第51週に合計11例の報告があった。)
- 急性ウイルス性肝炎6例
 - A型3例
 - B型3例__感染経路: 性的接触3例
- 後天性免疫不全症候群6例(AIDS 1例、無症候性キャリア5例)
 - 感染経路: 性的接触5例(同性間2例、異性間3例)
 - 不明1例

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は例年年末に患者報告数が多くなり、平成13年も同様の傾向がみられる。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっており、とくに山形県で定点当たり報告数6.3と多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数も過去5年間の同時期に比べやや多くなっており、宮崎県(44.1)、大分県(28.6)、石川県(25.5)、埼玉県(23.4)、三重県(23.3)、富山県(22.9)など九州地方、東海・北陸地方、関東地方に流行が拡大している(感染性胃腸炎の詳しい情報については、4ページ「注目すべき感染症」参照)。水痘の定点当たり報告数が多くなっているのは福井県(6.0)、新潟県(5.9)、山形県(4.7)、宮崎県(4.3)、石川県(4.1)などである。伝染性紅斑は非流行期であるが、過去5年間の同時期と比較するとやや定点当たり報告数が多くなっている。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、第19週よりここ10年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、定点当たり報告数が多くなっているのは、石川県(9.9)、長野県(6.8)、沖縄県(6.2)、富山県(5.6)、愛媛県(5.3)、山形県(4.9)などである。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数5.3と多くなっている。インフルエンザは、流行開始の指標と考えられる定点当たり報告数1.0を越えておらず、大分県、群馬県、宮崎県でそれぞれ定点当たり報告数2.7、2.1、1.3となっている。

発生動向総数(第51週) / 過去5年間との比(log)

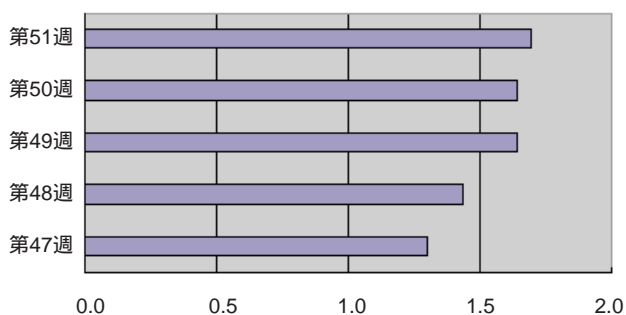


当該週と過去5年間の平均 (過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

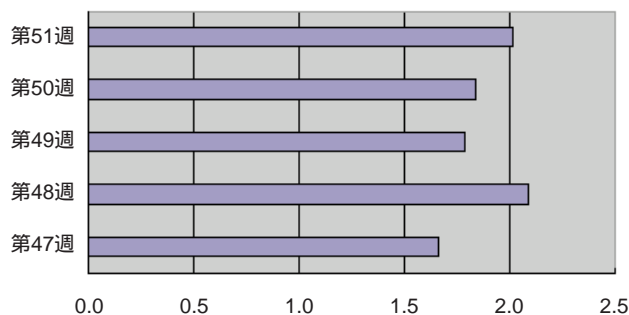
最近の注目疾患－5週間の動き

感染性胃腸炎、水痘の定点当たり報告数は12週連続で増加している。例年は第49～51週の年末にピークを迎える。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、ここ3週ほど目立った動きはない。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週続けて前週より増加し、依然として過去5年間の同時期にくらべかなり多い状態が持続している。基幹病院定点からの報告疾患であるマイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は3週連続で減少している。

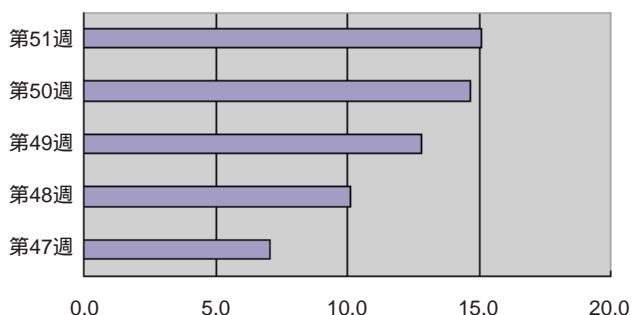
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



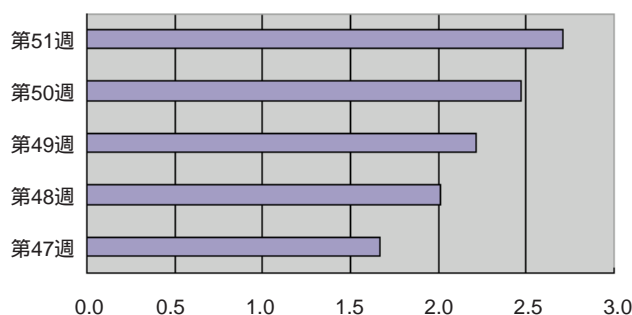
流行性耳下腺炎



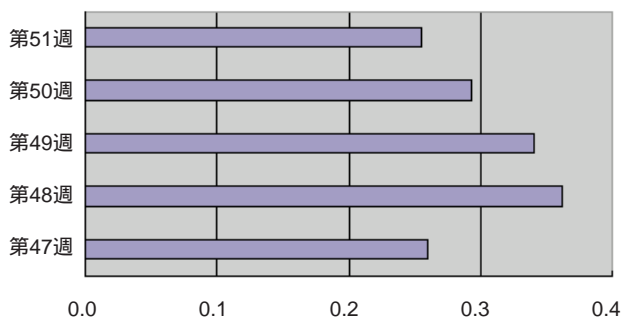
感染性胃腸炎



水痘



マイコプラズマ肺炎



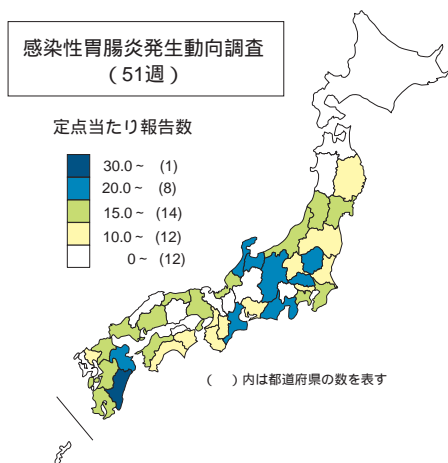
(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



注目すべき感染症

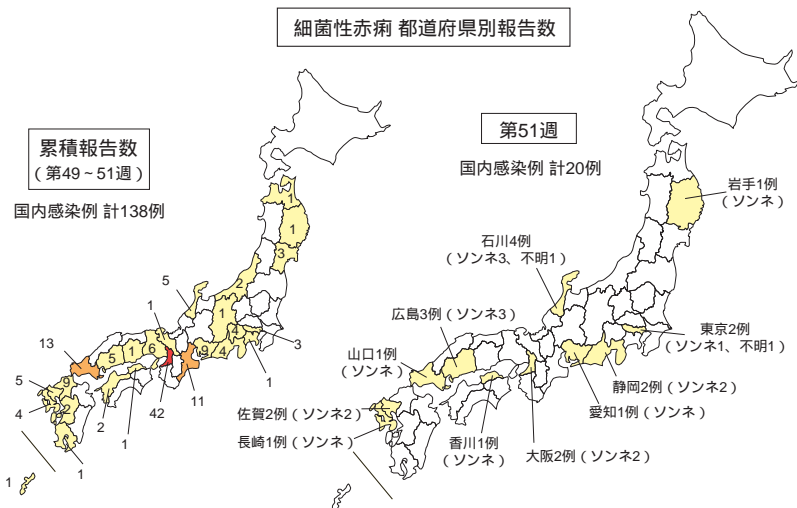
感染性胃腸炎

今シーズンの感染性胃腸炎は第39週より患者報告数が徐々に増加し始め、第45週～50週には急増している(16ページ感染性胃腸炎グラフ参照)。第51週の全国定点からの報告総数は45,606、平均の定点当たり報告数は15.11となっている。定点当たり報告数が多くなっている都道府県は宮崎県(44.1)、大分県(28.6)、石川県(25.5)、埼玉県(23.4)、三重県(23.3)、富山県(22.9)、長野県(21.9)、静岡県(20.9)、栃木県(20.0)などである。病原体検出情報事務局には、多くのSRSVの検出情報が寄せられている(ウイルスの検出情報については5ページ参照)。



細菌性赤痢

国内感染例の都道府県別報告数を地図に示す。



【訂正】2001年第50号(第50週)の「注目すべき感染症」細菌性赤痢都道府県別報告数地図において、岡山県に色を塗るべきところ、広島県に塗った誤りがありました。修正の上、2002年1月9日付けでPDFファイルを差し替えました。



病原体情報

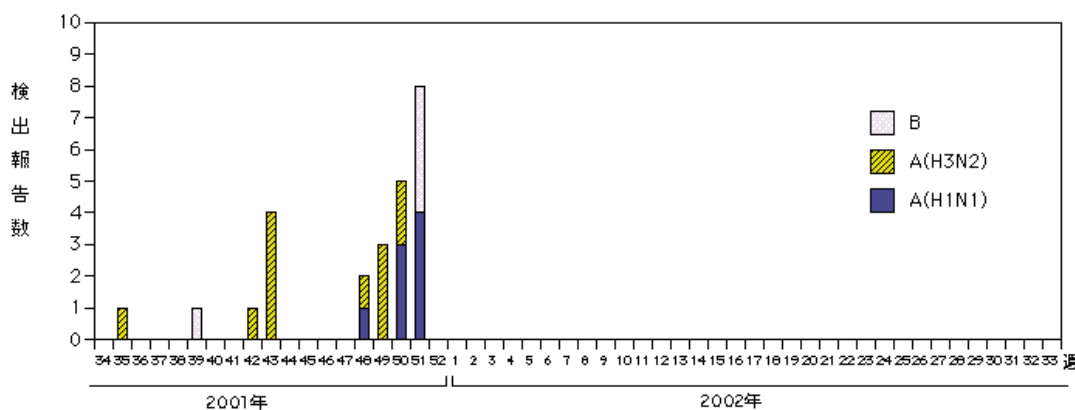
*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.go.jp/iasr/index-j.html>)からの引用です。
(2001年12月28日現在報告分)

インフルエンザ 2001/02シーズン

今シーズンの分離報告は、A/香港型ウイルス(H3)が18件(沖縄県6、高知県5、大阪府3、福島県2、長野県、愛知県各1)、A/ソ連(H1)型が8件(三重県2、北九州市2、大阪市、山口県、福岡市、沖縄県各1)、B型は5件(岡山県3、名古屋市、石川県各1)である。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2001/2002シーズン

(病原微生物検出情報：2001年12月28日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離報告を図に示した。
(*他に40週AH3, 49週Bが国立仙台病院で分離されている)

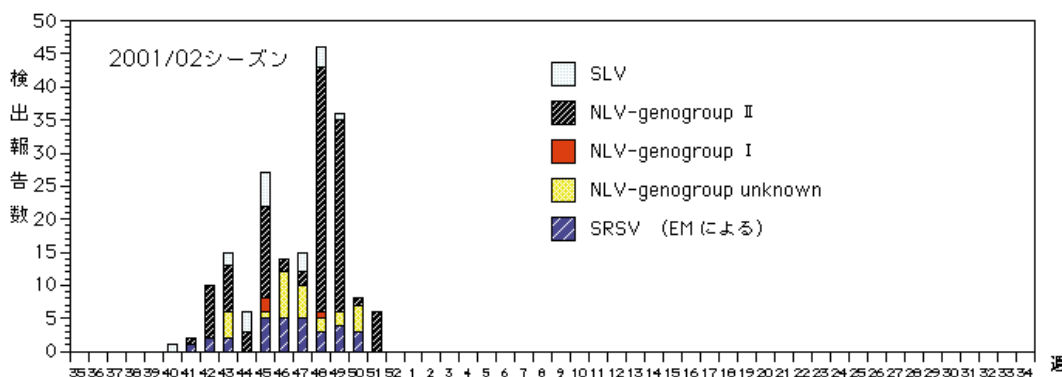


感染性胃腸炎 2001/02シーズン

今シーズンのSRSV検出として、ノーウォーク様ウイルス(NLV)genogroup IIが111件(大阪市24、岡山県18、東京都17、岩手県12、滋賀県12、熊本県11など)、NLV genogroup unknownが25件(新潟県10、秋田県8、東京都7)、NLV genogroup Iが3件(秋田県、東京都、石川県各1)、サッポロ様ウイルス(SLV)17件(愛媛県10、岩手県7)、電顕による検出30件(愛媛県11、岡山県8、北九州市8、栃木県3)の報告がされた。また、A群ロタウイルスの検出が9件(新潟県5、東京都2、岩手県1、大阪府1)報告されている。

検出されたSRSVの内訳、2001/02シーズン

(病原微生物検出情報：2001年12月28日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。





仙台市における12月中旬のA(H3)型インフルエンザウイルスの分離

12月初旬に、呼吸器系感染症症状を示して仙台市内の医療機関を受診した同市在住の患者からB型インフルエンザウイルスが分離されたのに引き続き、今回A(H3)型インフルエンザウイルスが分離されたので報告する。

症例: 患者は仙台市内在住の1歳男子であり、2001年12月13日に38~39度の発熱が始まり、14日に市内A病院耳鼻科を受診している。15日には下痢症状が出て、17日に市内B病院小児科を受診、19日に入院措置となった。入院時の症状は咳、鼻汁過多、ならびに軽度の肺炎であった。ただし、入院時の諸検査値上は問題なく、症状は発熱も37度台であり、主治医の話ではそう重症感はなくcommon cold-likeであり、患者は22日に退院している。同患児の親に対する聞き取りでは、家族内での発症を疑わせる者はなかった。

分離ウイルス: 12月19日採取された上記患者の入院時の咽頭ぬぐい液は、21日に国立仙台病院ウイルスセンターにて、ウイルス分離を目的に培養細胞(HEp-2, Human Embryo Fibroblast, MDCK, VeroおよびHMV-II細胞)に接種された。その結果、25日にMDCK細胞に強いICPEが確認された。この培養上清を材料に、七面鳥赤血球と、国立感染症研究所より分与された2001/02シーズン検査キットのフェレット抗血清を用い、赤血球凝集抑制試験を行った。その結果分離ウイルスは、抗B/Johannesburg/5/99血清(ホモ価640)、抗B/Akita(秋田)27/2001血清(ホモ価160)に対し、それぞれ<20、40の反応性を示し、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1)血清(ホモ価320)、抗A/Panama/2007/99(H3N2)血清(ホモ価1,280)に対しては、それぞれ<20、1,280という値を示した。以上の成績より、同分離ウイルスはA(H3)型インフルエンザウイルスと同定された。

考察:

1) 仙台市においては、2001年10月5日患者検体からインフルエンザA(H3)型ウイルスが分離されているが(IASR Vol.22, No.11参照) これまでこれに続くA型インフルエンザウイルスは分離されていなかった。その後、仙台市ではパラインフルエンザ1型およびエンテロウイルスの小流行を思わせる分離(IASR Vol.22, No.12参照) さらにB型インフルエンザウイルスの分離が相次いでいた(IASR 速報参照)。今回の分離症例の発症日は、B型ウイルス分離症例の発症日と比較的に近いこと、さらに患者の住居地域が仙台市内の同一区内であることから、少なくとも同区内で、A型とB型インフルエンザが、ほぼ同じ12月のこの時期に混在していたことを示唆しており、今後年明け以降、混合流行の可能性も視野に入れインフルエンザ流行を監視していく必要があると思われる。

2) 10月の分離ウイルスに関しては、赤血球凝集性が通常の分離ウイルスと変わっており、また抗原性も今シーズンのワクチン株から若干ずれていたが、今回の分離株に関しては七面鳥、モルモット両赤血球に対する凝集性は良好で、抗原性もワクチン株と一致しており、10月の分離株と今回の分離株が直接つながる可能性は、極めて低いと思われる。

3) 赤血球凝集抑制試験において抗B/Akita(秋田)27/2001血清と、値は低いものの交差反応が認められた(ホモ価160のとき分離株40)。同様のことは昨シーズンの分離の際にも経験している。分離A(H3)型ウイルス167件中6件(いずれもホモ価640の抗A/Panama/2007/99血清に対しHI価2,560前後)が抗A/Moscow/13/98(H1N1)血清、抗A/New Caledonia/20/99(H1N1)血清(それぞれホモ価1,280、640)さらに抗B/Yamanashi(山梨)166/98(ホモ価640)と40~160といった値

で交差反応していた。血清のインヒビター処理は毎回定法に従って適切に行っており、また前回の場合、再度血清を処理しても結果は同じであり、分離株によってこのような現象が起きたり、起きなかったりしていた。理由は今のところ不明であるが、型同定の際には注意すべき点と思われる。なお今回は、分離ウイルス培養液(16HA相当)に対しA・B両型を検出するインフルエンザ抗原簡易検出キットによる検査を試み、A型のみが反応することを確認した。

国立仙台病院ウイルスセンター

岡本道子 近江 彰 千葉ふみ子 伊藤洋子 西村秀一



海外感染症情報

* 関連の情報やさらに詳しい情報については、FORTHホームページ(<http://www.forth.go.jp/>)をご覧ください。

ガボンのエボラ出血熱流行 - 更新

WHO/CSR 2002年1月4日

1月2日現在、23名の死亡例(ガボン17名、コンゴ共和国6名)を含む32名のエボラ出血熱診断確定患者(15名は検査で、17名は疫学的に診断)が報告された。32名の確定診断患者のうち、20名がガボンで、12名が両国の国境近くのいくつかの村で見つかった。さらに10名の疑い患者(ガボン8名、コンゴ共和国2名)が調査中である。

接触者全員(患者の血液や体液に直接触れたか、またはそれが疑われる者)に対して、21日間エボラ出血熱の徴候や症状の監視が綿密に行われている。2002年1月2日現在、242名の接触者(ガボン147名、コンゴ共和国95名)を追跡中である。

国際協力チームは国境の両側で対策を遂行中で、流行制圧活動のために現地で、コンゴおよびガボン保健省の対策チームと密接に協力して活動している。

アライグマの回虫による脳炎

MMWR 2002年1月4日

Baylisascaris procyonis(BP)は、アライグマの小腸によく見られる回虫であり、ヒトを含むさまざまな哺乳動物や鳥類に重症または致死的な脳炎を引き起こす。BPはまた、ヒトの眼球や内臓に幼虫移行症を引き起こす。ヒトは、アライグマの糞便で汚染されてBPの虫卵を含む土や他の物(例えば樹皮または木のチップ)が口から入ることで感染する。小さい子供は、異食症や土食症のような行動や、汚染された指や他の物(おもちゃなど)を口に持っていく場合に、特に感染のリスクがある。この報告は、シカゴとロサンゼルスに住民に発生した2例のBP脳炎について記述し、米国の都会でアライグマやその糞便への曝露を減らすことの重要性を示す。

2000年7月に鉄欠乏性貧血と異食症の病歴がある2歳6カ月の小児が、8日間持続した微熱と、入院の3日前より傾眠、刺激過敏性、失調が増強したため、シカゴの病院に入院した。

入院時の臨床所見と検査で脳炎の診断がなされた。末梢血好酸球増多(WBC 21,000/mm³、好酸球28%)、脳脊髄液の好酸球優位の細胞増多(WBC 80/mm³、好酸球32%)、脳波検査で汎発性の徐波が見られた。4週間の入院中、アルベンダゾールおよびコルチコステロイドの治療に反応せず、深刻な神経障害が残り、要看護状態が続いている。

2例目は、8年間の重度の発達障害と土食症の病歴を持った17歳の少年で、全身性の緊張亢進および反射亢進を伴う昏睡で、2000年1月にロサンゼルス市の病院に入院した。入院の2日前から微熱、傾眠、協調運動障害が見られた。入院時の検査で末梢血好酸球増多(WBC 15,900/mm³、好酸球15%)、脳脊髄液の好酸球優位の細胞増多(WBC 19/mm³、好酸球37%)が見られた。抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、寄生虫薬および消炎剤で治療を受けたが状態は改善せず、1年間の昏睡の後に死亡した。

MMWR編集者注

この報告の2例に加えて、重症あるいは致死的なBP脳炎が少なくとも12例、米国(カリフォルニア、イリノイ、ミシガン、ミネソタ、ニューヨーク、オレゴン、ペンシルバニア)で1981年以来確認されている。12例のうち10例が、9ヵ月齢から6歳の小児に起きた。そのうちの8例が19ヵ月齢未満であった。BPが眼球へ移行した症例も確認された。

BPに感染しているアライグマは、米国の大部分に生息している。アライグマのBP感染率が高い(68%～82%)地域は、米国中西部、北東、西海岸である。感染したアライグマは、糞便に毎日何百万ものBPの虫卵を放出している。虫卵は通常2～4週間で感染性のある幼虫保有卵となる。虫卵は大部分の環境条件に耐性があり、適切な湿気があれば何年間も生存できる。



感染症の話

ペスト

ペストは、腸内細菌科に属する通性嫌気性のグラム陰性桿菌 *Yersinia pestis* に起因する全身性の侵襲性感染症で、ノミやエアロゾルを介して伝播する。感染ルートや臨床像によって腺ペスト、肺ペスト、および敗血症型ペストに分けられる。

臨床症状

1) 腺ペスト

腺ペストはヒトペストの80～90%を占め、ペスト菌含有ノミの咬傷や、稀に、感染したヒトあるいは動物への接触により、傷口や粘膜から感染する。侵入部位にほとんど変化を起こすことなく、近くの局所リンパ節に伝播する。リンパ節は壊死、膿瘍を形成し、クルミないしアヒルの卵大に腫大する。その後、リンパ流、血流を介して脾臓、肝臓、骨髄を経て、心臓、肺臓など全身に伝播して敗血症を起こす。

臨床症状としては、通例3～7日の潜伏期の後、40 前後の突然の発熱に見舞われ、頭痛、悪寒、倦怠感、不快感、食欲不振、嘔吐、筋肉痛、疲労衰弱や精神混濁などの強い全身性の症状が現れる。通例、発症後3～4日経過後に敗血症を起こし、その後2～3日以内に死亡する。なお、稀に、ノミの刺咬部位の皮膚、または眼に化膿性潰瘍や出血性炎症を形成する場合がある。その場合は特に皮膚ペスト、眼ペストと呼ぶこともある。

2) 敗血症型ペスト

ヒトペスト全体の約10%を占め、局所症状がないまま全身に伝播して敗血症を引き起こす。臨床症状としては急激なショック症状、および昏睡、手足の壊死、紫斑などが現れ、その後、通例2～3日以内に死亡する。

3) 肺ペスト

非常に稀な事例ではあるが、最も危険なタイプである。腺ペスト末期や敗血症型ペストの経過中に肺に菌が侵入して肺炎を続発し、肺胞が壊れて、痰やペスト菌エアロゾルを排出するようになると、この患者が感染源になってヒトからヒトへと素早く伝播する肺ペストが発症する。潜伏期間は通例2～3日であるが、最短12～15時間という報告例もある。発病後12～24時間(発病後5時間の例も記載あり)で死亡すると言われている。臨床症状としては、強烈な頭痛、嘔吐、39～41の発熱、急激な呼吸困難、鮮紅色の泡立った血痰を伴う重篤な肺炎像を示す。

疫学

1) 世界の状況

ペストは本来、森林原野のペスト菌常在地域に生息する齧歯類の感染症である。ペスト菌常在地域に近づいたハンターやきこりがノミを介して罹ったり、時には、地震や水害などによる環境の悪化に伴い、森林原野の野ネズミが田畑や人居地域まで下りてきて、家ネズミやヒトにまでペストを伝播する。悪条件が重なると大きな流行も起こる。また、少数ではあるが、これらの地域のネコ、イヌ、クマ、ラクダ、ブタ、ヒツジなどへのペスト感染事例や、これらのペットや家畜からヒトへの感染事例も報告されている。

人間に対して感染力が高いノミはケオピス、セラトフィルス、ノソフィルスなどで、いずれも家住性ネズミに寄生するノミである。その中でもケオピスは貪食で頻繁に吸血し、人間を好んで吸血するため、ヒトペストに大きく関わっている。

近年、ペスト菌常在地域にも文明化が押し寄せ、人間とペスト菌が直接的、間接的に接触する機会が増えてきた。WHOの報告(図1)では、1991年を期にヒトペストは増加の一途をたどり、1997年には患者5,419(死者274)で、1996年の患者3,017(死者205)より大幅に増加している。特に、アフリカ大陸で顕著な増加が見られる。図2に1970～1998年の患者発生国24カ国と、現在、危険なペスト特別地域を示した。それらは、(1)アフリカの山岳地帯および密林地帯、(2)東南アジアのヒマラヤ山脈周辺ならびに熱帯森林地帯、(3)中国、モンゴルの亜熱帯草原地域、(4)アラビアからカスピ海西北部、(5)北米南西部ロッキー山脈周辺、(6)南米北西部のアンデス山脈周辺ならびに密林地帯、などである。

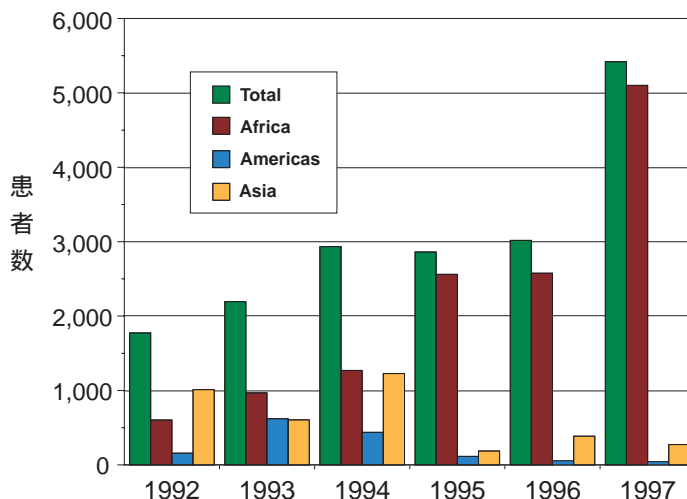
2)日本の状況

1899年にペストが日本に輸入されてから27年間に大小の流行が起こり、ペスト患者2,905人(死者2,420)が発生した。しかし、日本がペストの根絶に成功したのは、ペスト菌の発見者である北里

柴三郎や、彼の指導下でダイナミックに動いた当時の日本政府のペスト防御対策(特に、ペストネズミの撲滅作戦)にある。お陰で、ペストが、家住性ネズミから撲滅不可能な山野の齧歯類に伝播するのを阻止できた。その結果、1926年(大正15年)を期に、今日までペスト患者は出ていない。

しかし、昨今事情が変わり、海外との交流が盛んになるにつれ、開拓が進んだペスト菌常在地域を訪れる日本人観光客、商社マンなどが年々増えている。また同時に、日本市場の自由化に伴い、ペスト菌常在地域からの資材や食物だけでなく、ペットの輸入も顕著に増加している。アメリカのCDCは、輸出予定のプレリードッグがペストに感染して多量に死亡した事実から危険性を察知して、プレリードッグの輸出入および売買を禁止するよう指導しているが、日本にも多くのアメリカ産プレリードッグが輸入されていることが明らかになった。過去には年間3～5万頭との推定もある。厚生労働省は直ちに研究班を作り、実態調査を行った。幸いにして、検査した結果は全て陰性であったが、注意を怠らないようにする必要がある。

図1. 世界におけるペスト患者の推移



* CDC ホームページ(2001年9月22日更新)より改編

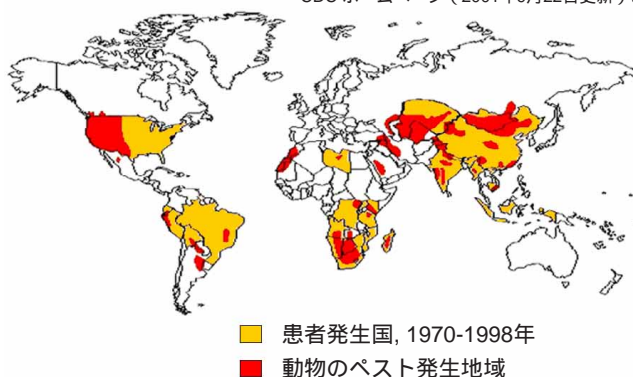


図2. 世界におけるヒトペスト、動物ペストの発生地域(1998年)

病原体

全ゲノム配列の解析から、*Yersinia pestis* は1,500～2万年前に *Yersinia pseudotuberculosis* serotype O:1bから進化した菌で、ゲノム内では多数の他の細菌やウイルス遺伝子の組み替えが頻繁に繰り返された痕跡や、不必要な腸病原菌生活時代の遺伝子(約150個)の不活化が示されたことなど、ゲノムの大規模な変動を経て、極めて毒性の強い菌に進化したことが明らかになった。ペスト菌は約4.65Mbの染色体遺伝子と、96.2kb, 70kb, 9.6kbの3種類のヴィルレンスプラスミドから構成されている。9.6kbプラスミドにはプラスミノージェンアクチベーター、ペスチシン1、コアグラーゼが、70kbpプラスミドには *Yersinia* の外膜蛋白(Yops)が、96.2kbプラスミドには莢膜抗原(Fraction 1)、murine toxinがコードされている。

ペスト菌は非運動性のグラム陰性の多形形態を示すが、組織内および培養菌などの新鮮な菌では、約1.5×0.7 μmの両端の丸い楕円形の短桿菌で、単染色法では特徴ある明瞭な極小体が観察される。発育適温は28～30℃で、1～45℃で発育する。ペスト菌の特徴ある形態学的性質(莢膜抗原)の発現には37℃が適している。その発育は他の一般的な菌より遅く、血液寒天でさえ集落が明らかに認められるのは48時間培養後で、また溶血像は見られない。液体培養では沈殿発育する。

病原診断

ペストの判断基準

1)疑似患者

- (1)ペスト流行地への渡航歴や、バイオテロに巻き込まれた可能性がある場合で、ペストの臨床症状を示し、さらに、臨床材料からグラム陰性で両端染色性を示す桿菌や、診断用抗原(莢膜抗原)に対する抗体、蛍光抗体に対して陽性を示す菌が検出された場合
- (2)ペスト菌に特異的なプライマーを用いたPCR法で、特異的なバンドが検出された場合
- (3)患者血清中の抗Fraction 1抗体価が、passive haemagglutination testで16倍以上を示した場合

2)確定患者

- (1)臨床材料から分離した菌が、顕微鏡所見で明らかな極小体を示すグラム陰性桿菌で、莢膜抗原に対する抗体、蛍光抗体に陽性を示し、ペスト菌に特異的なプライマーを用いたPCR法で陽性を示し、ペスト菌特異ファージに対して感受性を示し、生化学的性状がペスト菌の性状と一致することなどから総合的に判断し、ペスト菌(*Yersinia pestis*)と同定された場合
- (2)Passive haemagglutination testで、診断用抗原に対する回復期の抗体価が、感染初期の抗体価の4倍以上上昇している場合

治療

ペストの治療には抗菌薬が非常に良く効くため、早く治療さえすればもう昔のように怖い病気ではない。予後は良好で、後遺症は殆ど残らない。肺ペストの場合は病気の進行が極めて速いので、特に抗菌薬の早期の投与が必須である。

日本でペストの治療薬として保険が適用されているのは、ストレプトマイシンだけである。ストレプトマイシンはペストに最も効果があるが、副作用があるので過度の投与は避けたほうが良い。新生児、未熟児、乳児、小児に対する安全性はまだ確立されていない。

その他に、アメリカのCDC、WHOによって推奨されている抗ペスト薬があるので、以下にそれらの

薬剤を記述した。なお、日本人は体格的にも人種的にも欧米人とは異なるため、用量は「今日の治療薬(南江堂)」を参考にして戴きたい。治療期間はすべての抗菌薬において10日を超えないこと。

1) アミノ配糖体

ストレプトマイシン、ゲンタマイシンは全てのペストに最も効果がある。

2) テトラサイクリン系

テトラサイクリン、ドキシサイクリンは腺ペストおよび肺ペストの治療に、アミノ配糖体と適宜に併用して使用する。

3) クロラムフェニコール

ペストによる髄膜炎、胸膜炎、内眼球炎などの治療に用いる。腺ペストまたは敗血症型ペストの治療には、アミノ配糖体と適宜に併用して使用する。

4) ニューキノロン系

ニューキノロン系の抗菌薬は全般的にペストに対して優れた効力を示し、その中でも特にレボフロキサシン、スパルフロキサシンが優れているので、副作用(腎障害、聴力障害)の強いアミノグリコシド系よりペストの治療に期待が持てる。

予 防

1) 抗菌薬の予防投与

患者と直接接触した人や肺ペスト患者に接近した人など、発病する可能性の高い人や、流行地への旅行者などのように短期間ペストの暴露を受ける可能性がある人に対して、予防のためにWHO、CDCは抗菌薬(テトラサイクリン、ドキシサイクリン、ST合剤)の予防投与を勧めている。投与量は、治療で用いる量の1/2 ~ 同量を経口投与する。

2) ワクチンの接種

長期に渡ってペスト菌常在地域にいる人で、ペスト菌に濃厚に暴露される可能性が高い人は、ワクチンの接種を受けることが勧められている。例えば、ペスト患者に接する医療従事者、ペスト流行を制圧するために派遣されたJICAやWHOの専門家など、ならびにペストネズミやノミに曝される危険性のある海外協力隊員や自衛隊員などの野外作業員、また時には流行地に赴任したジャーナリスト、商社マンなども対象になる。ペストワクチンは厚生労働省の依頼で国立感染症研究所で製造し、検疫所で入手可能である。

感染症法における取り扱い

ペストは1類感染症であり、診断した医師は最寄りの保健所に直ちに届け出る。報告のための基準は以下の通りである。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断がなされたもの

(材料) 臨床材料(血液、リンパ節腫吸引物、痰、組織等)

・病原体の検出

例、ペスト菌(*Yersinia pestis*)の分離・同定(染色後塗抹標本の鏡検も参考となる)など

・抗原の検出

例、エンペローブ(Fraction I 抗原)抗原に対する蛍光抗体法など

・病原体の遺伝子の検出

例、ペスト菌特異的遺伝子のPCR法による検出など

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの(病原体や抗原は検出されず、遺伝子のみが検出されたものを含まない)

疑似症の診断

- ・臨床所見、ペスト流行地への渡航歴、齧歯類に寄生しているノミによる咬傷の有無を参考に診断し、また、以下の鑑別診断がなされたもの

(鑑別診断)

Burkholderia pseudomallei(臨床症状が肺ペストと類似)

野兔病(臨床症状が腺ペストに類似し、かつ共通抗原決定基を持つ)など

なお、血清抗体価については診断の参考として用いることができる(抗Fraction 1抗体価が passive haemagglutination test(PHA)で10倍以上が目安)

《備考》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

学校保健法における取り扱い

ペストは第一種の伝染病であり、出席停止期間の基準としては「 治癒するまで 」と規定されている。

(国立感染症研究所細菌部 塚野尋子)



読者のコーナー

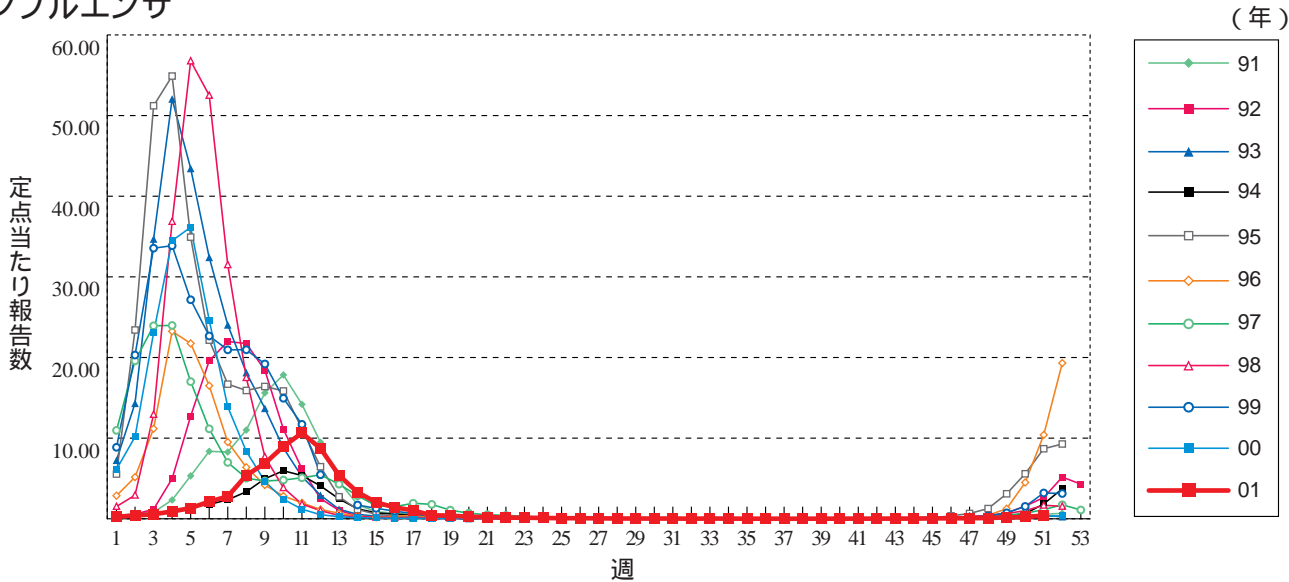
「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

idsc-query@nih.go.jp

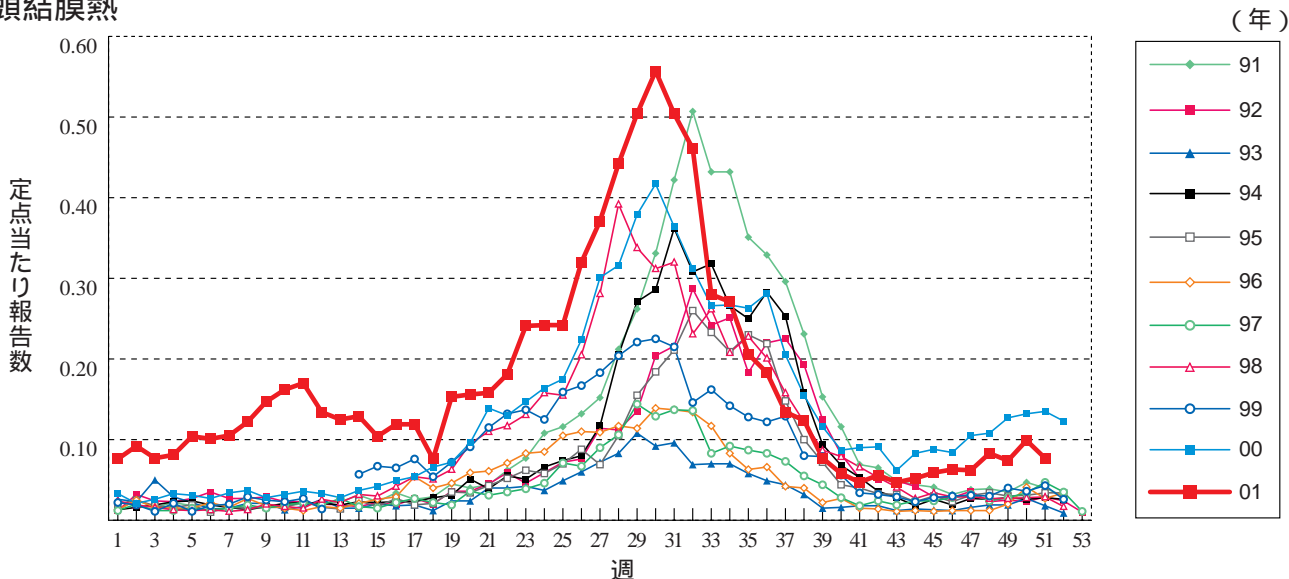


グラフ総覧(51週)

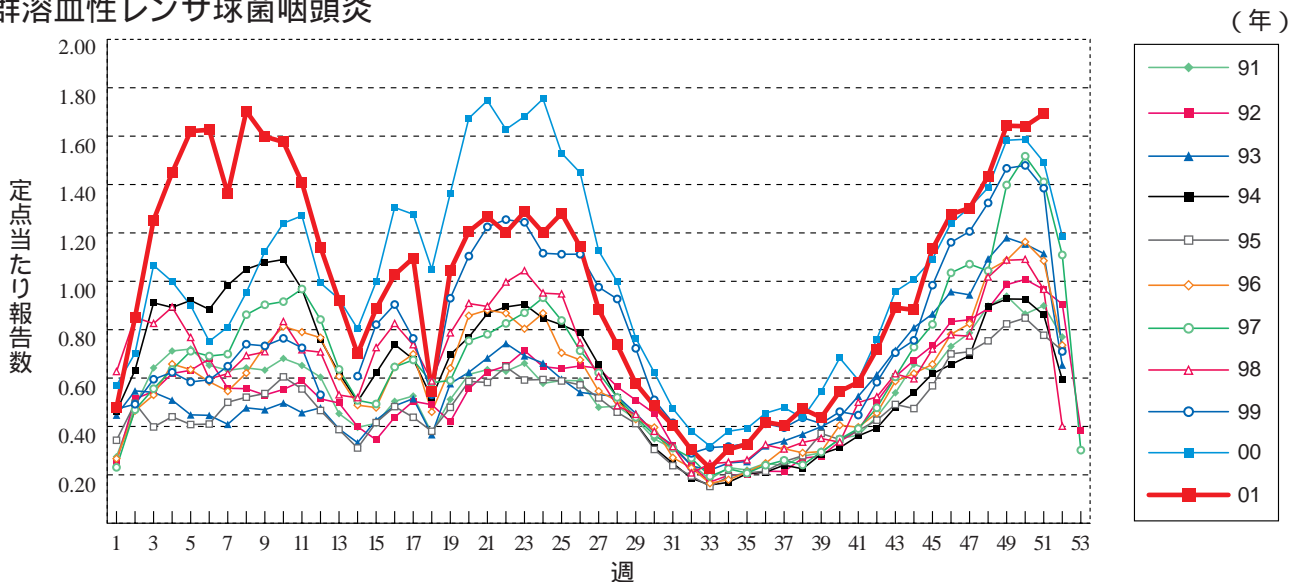
インフルエンザ



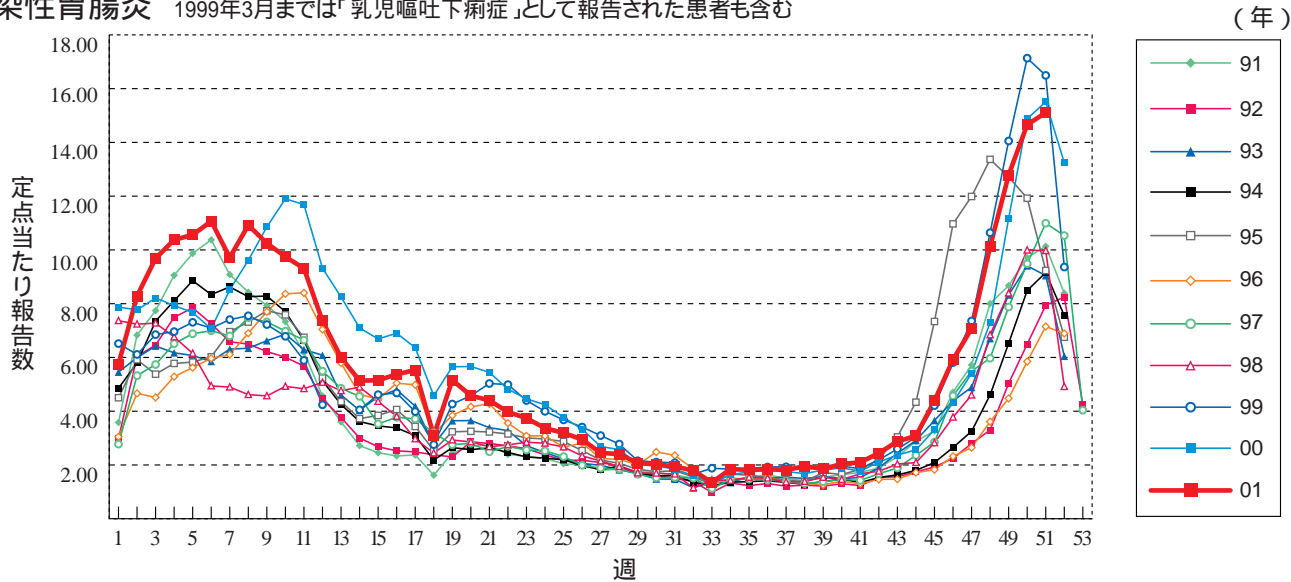
咽頭結膜熱



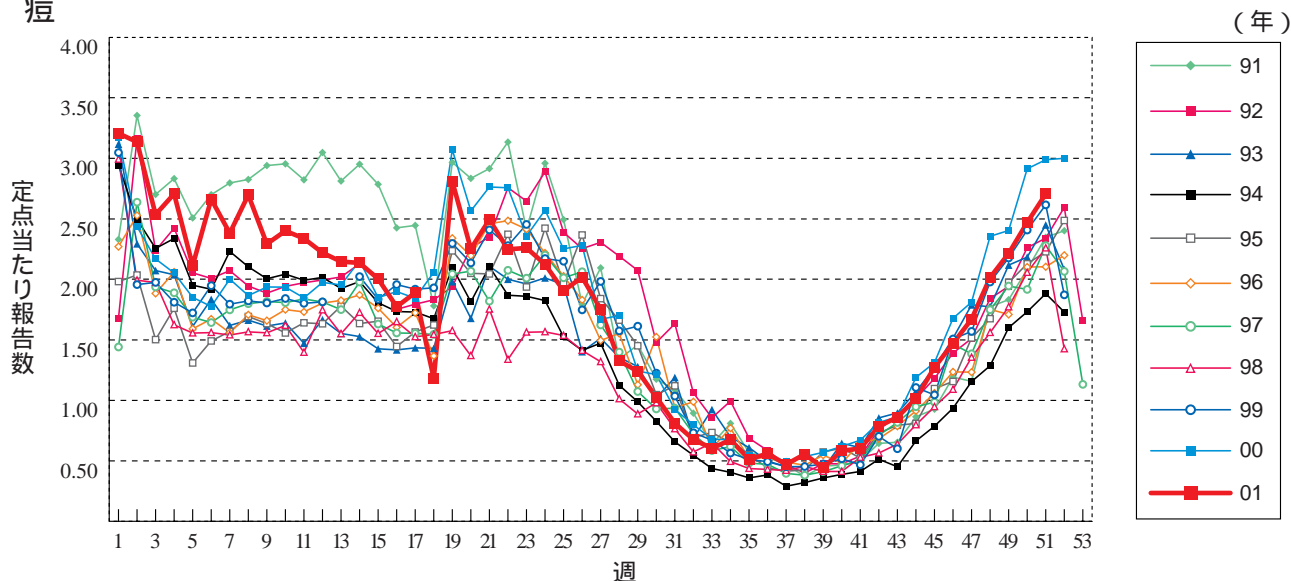
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



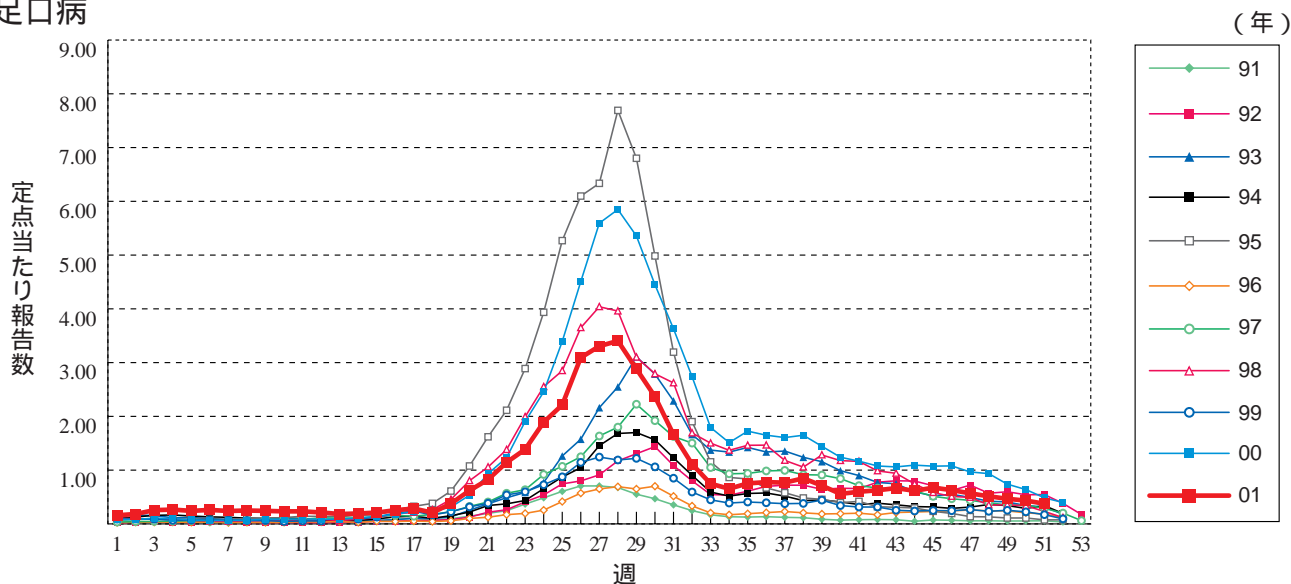
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



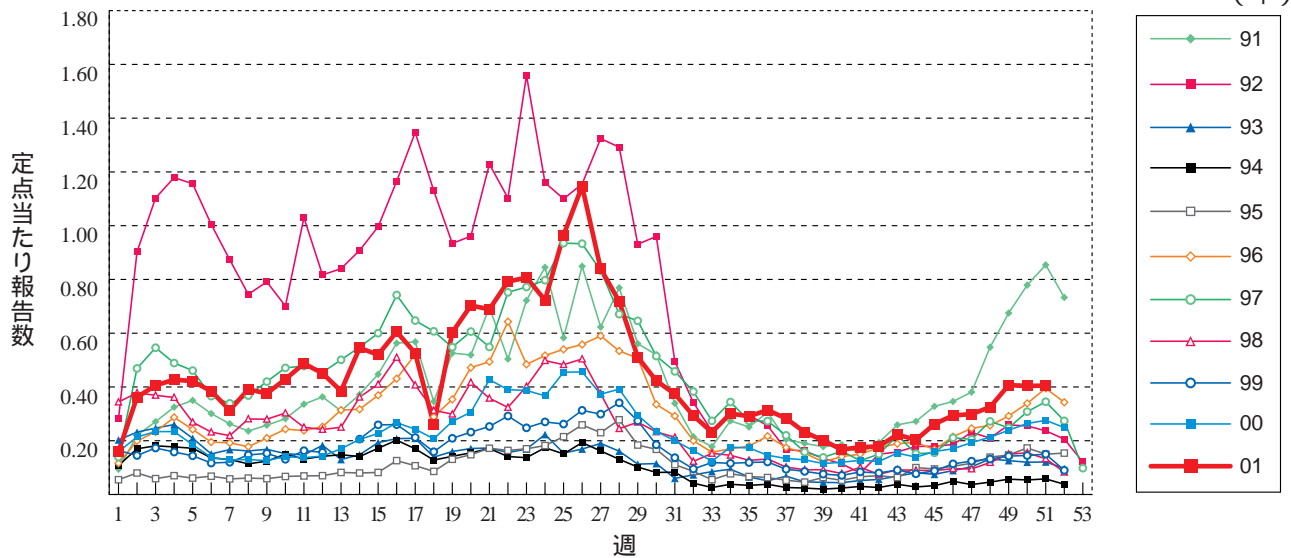
水痘



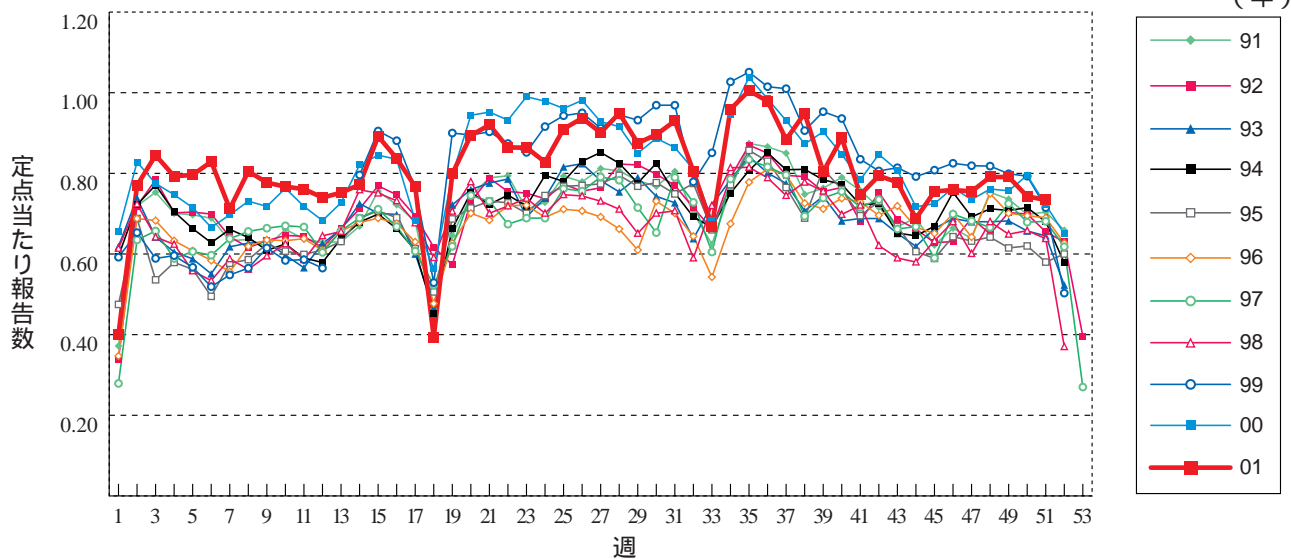
手足口病



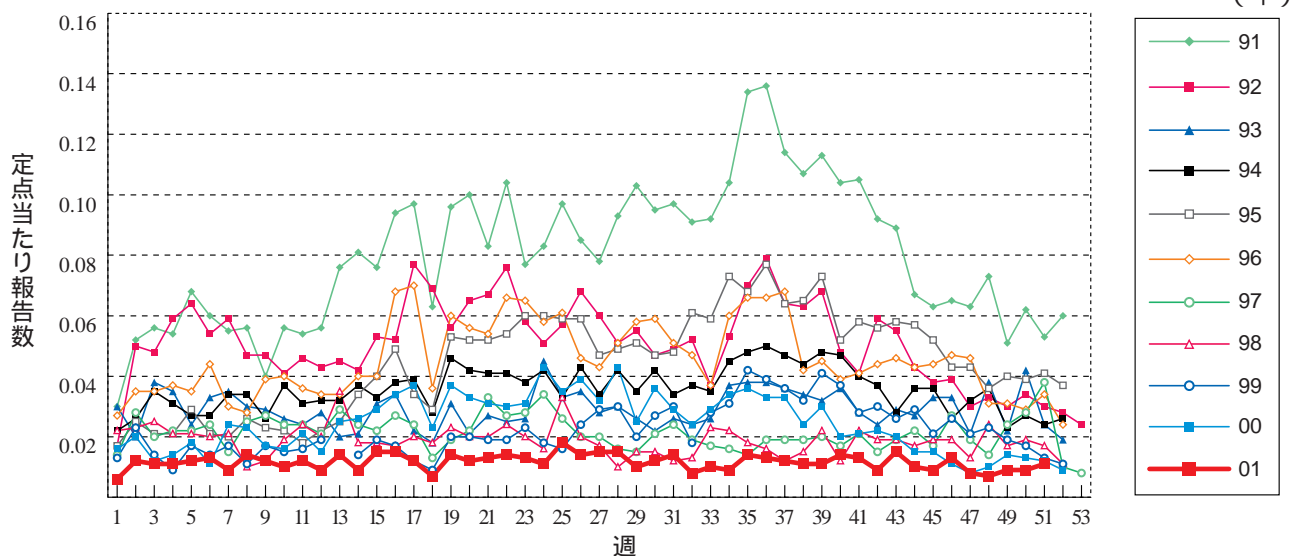
伝染性紅斑



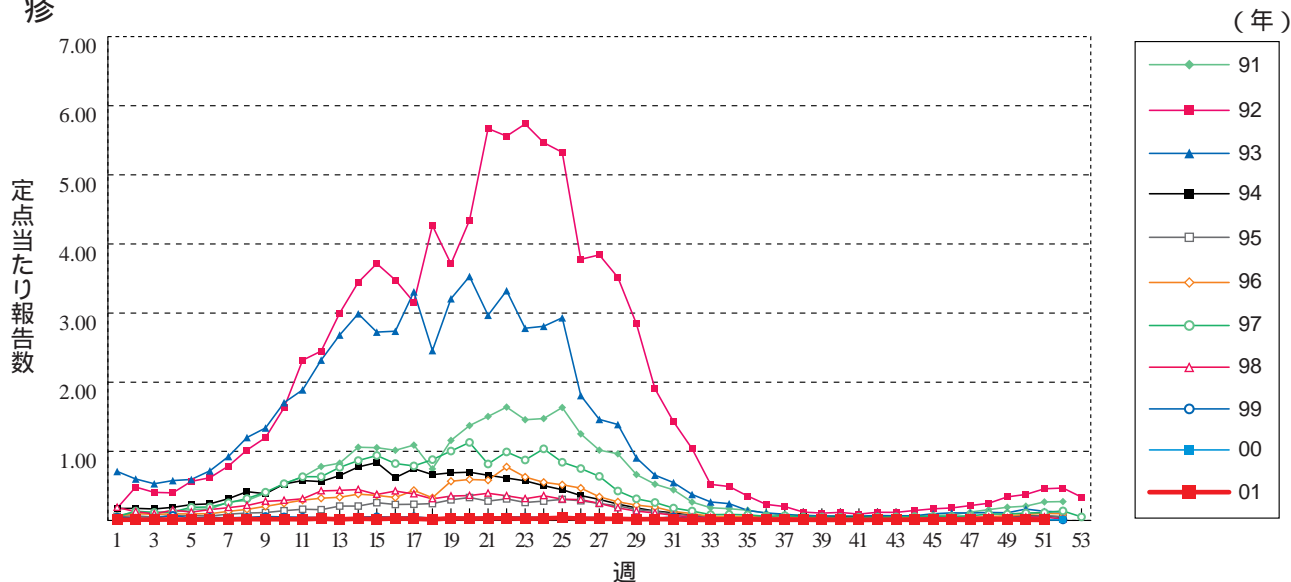
突発性発疹



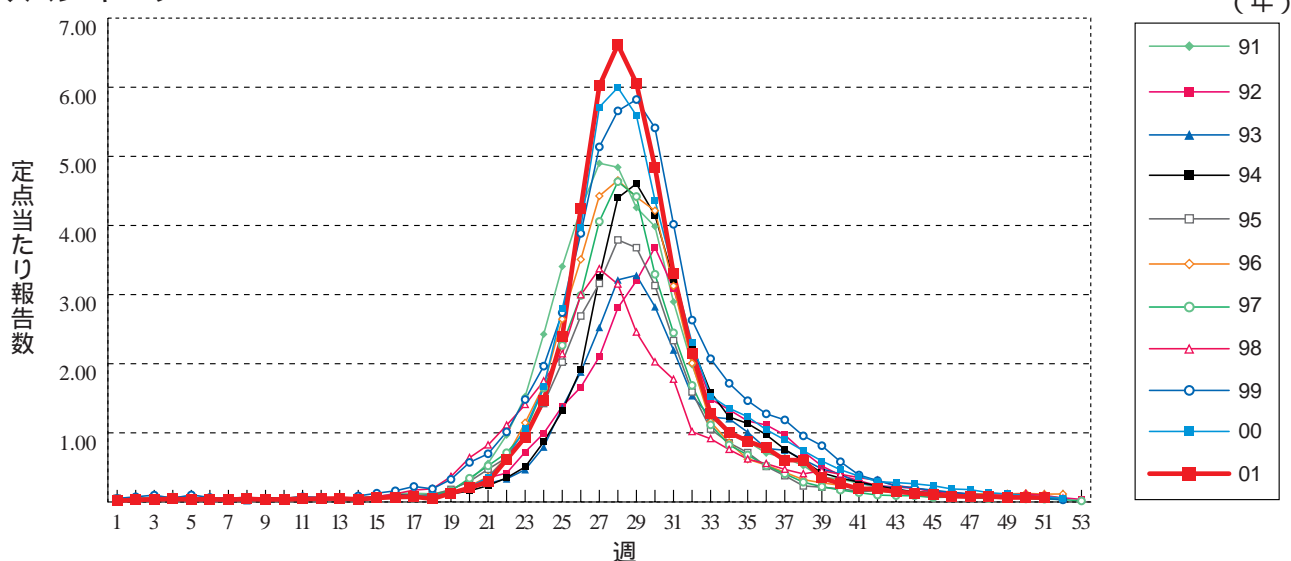
百日咳



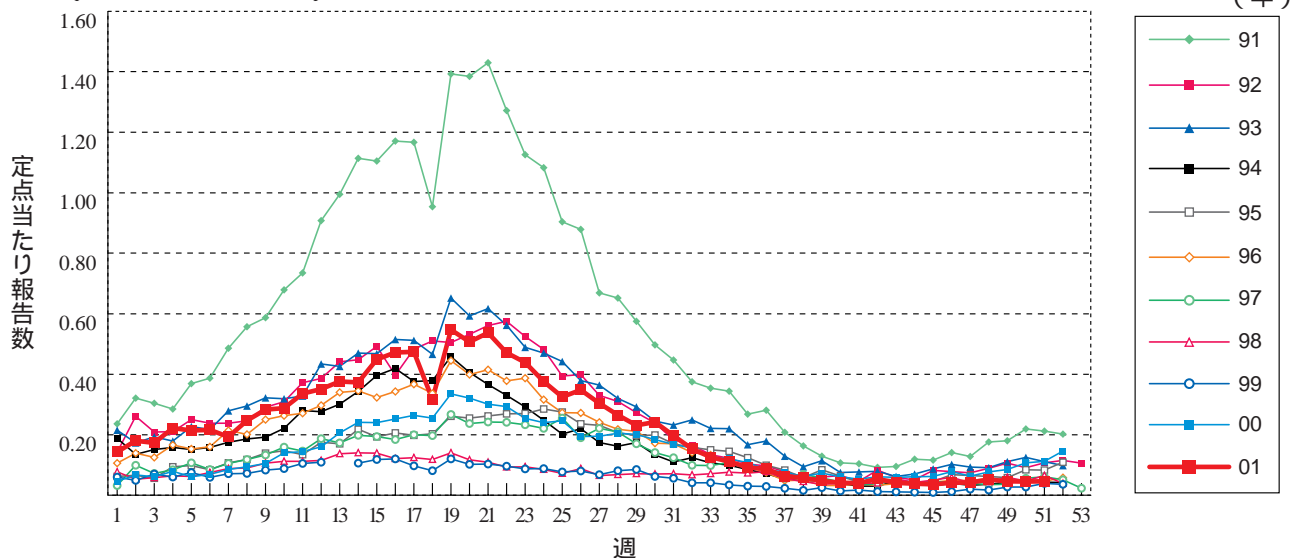
風 疹



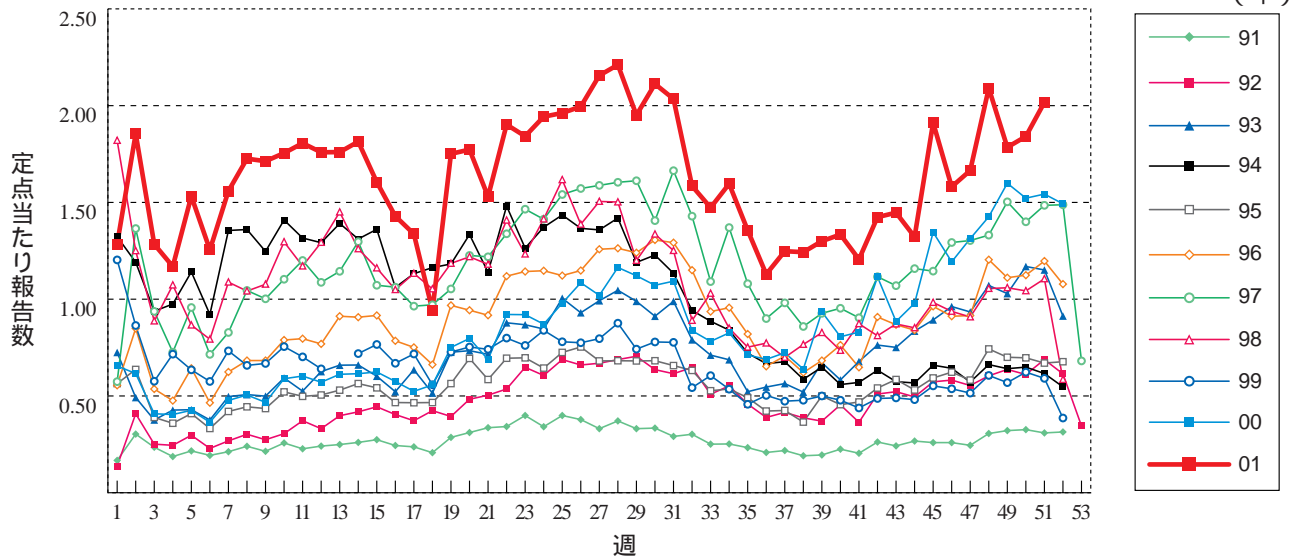
ヘルパンギーナ



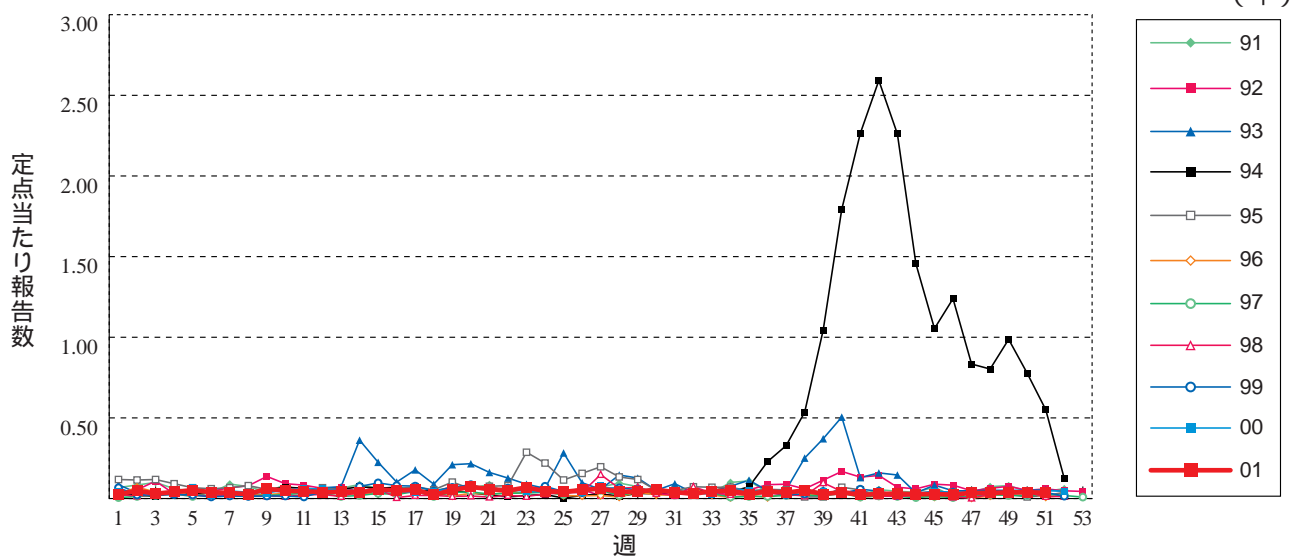
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



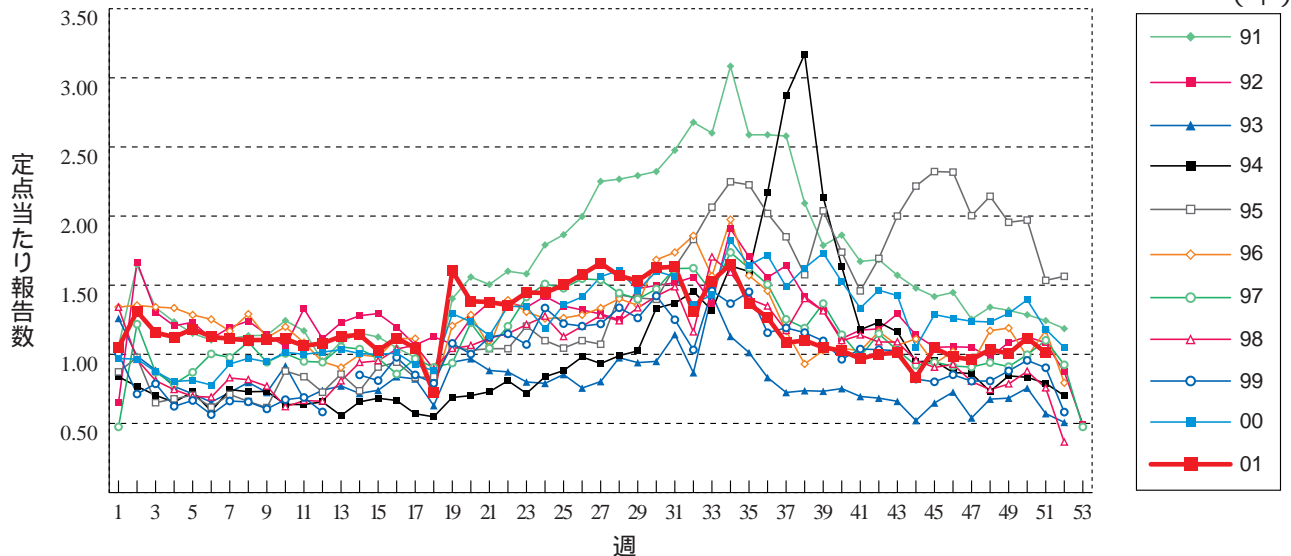
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

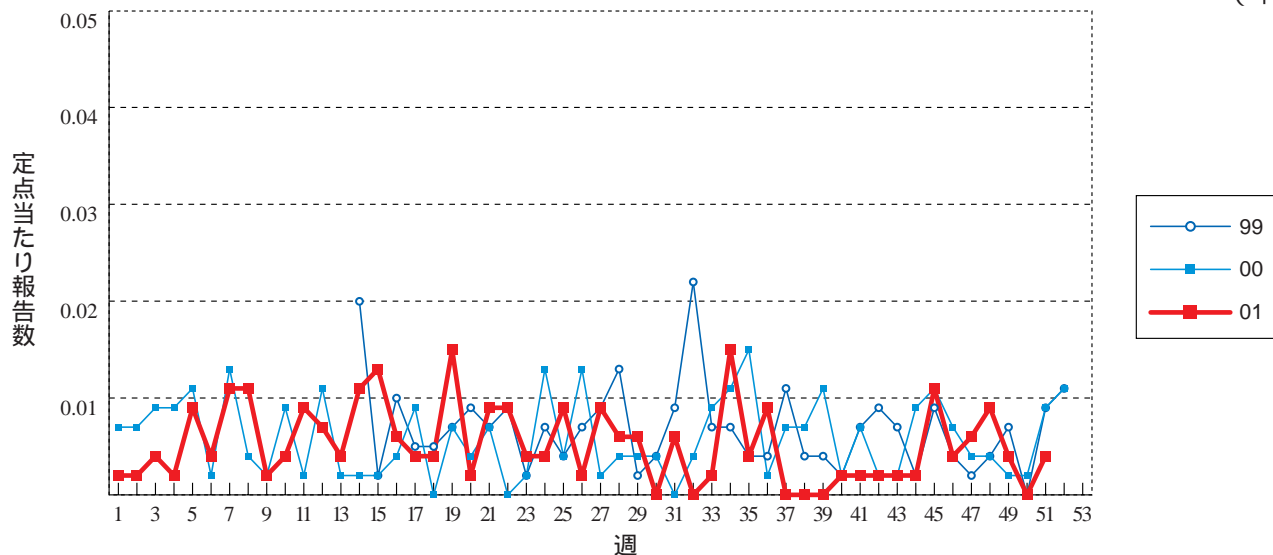


流行性角結膜炎



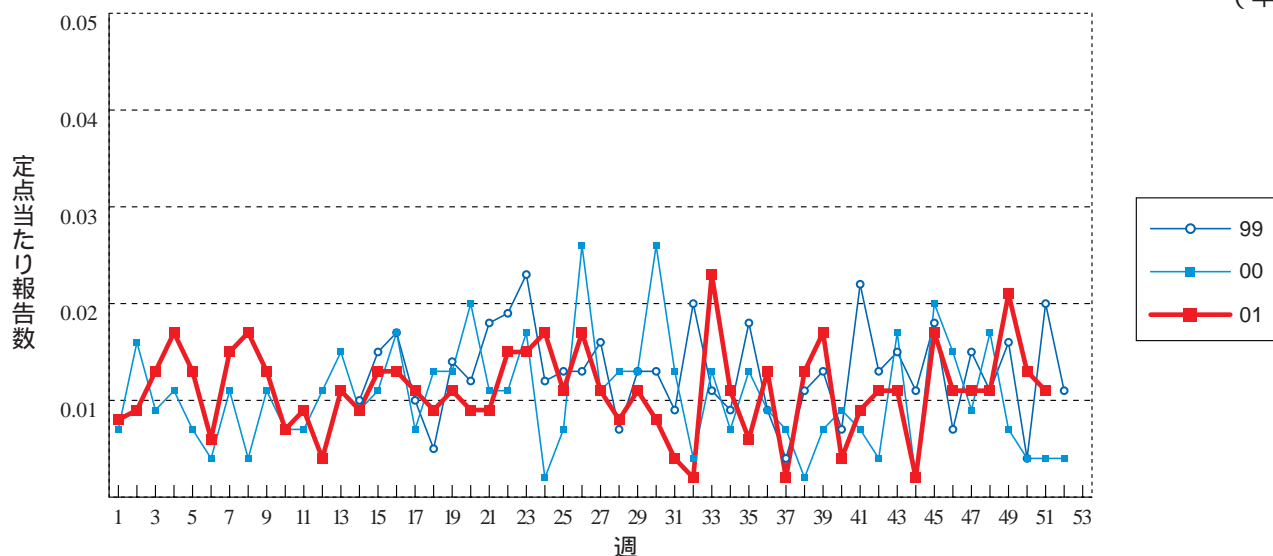
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



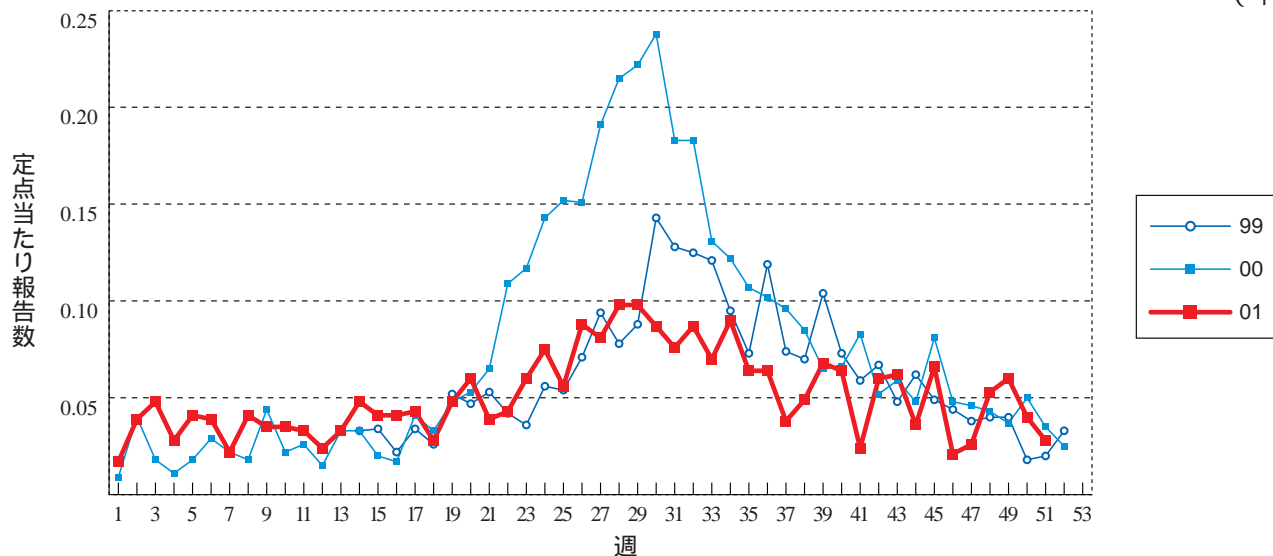
細菌性髄膜炎

(年)



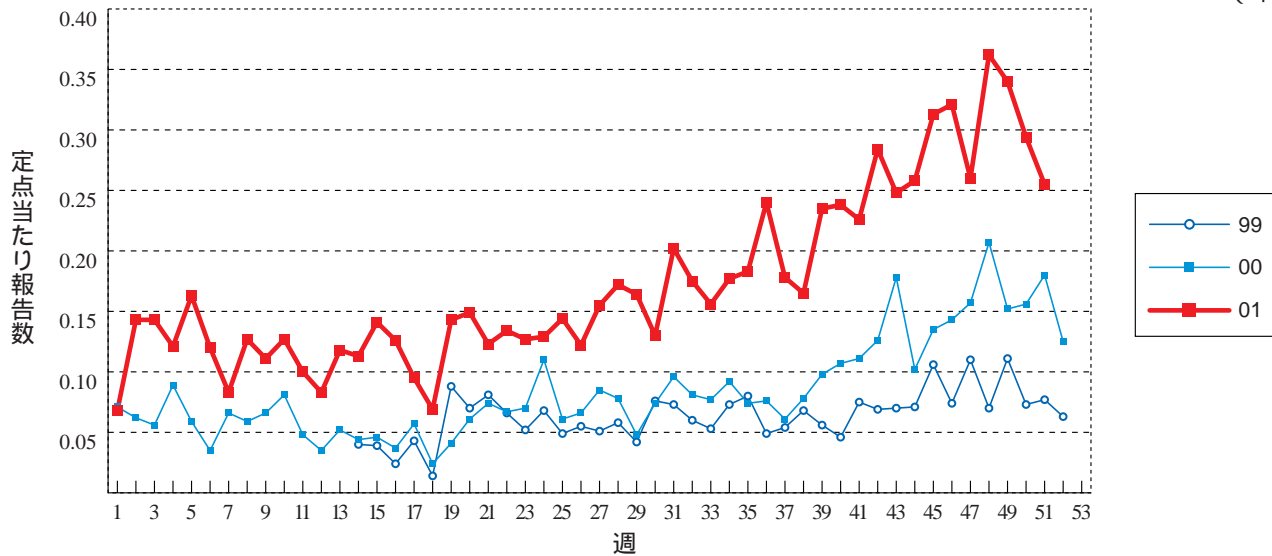
無菌性髄膜炎

(年)



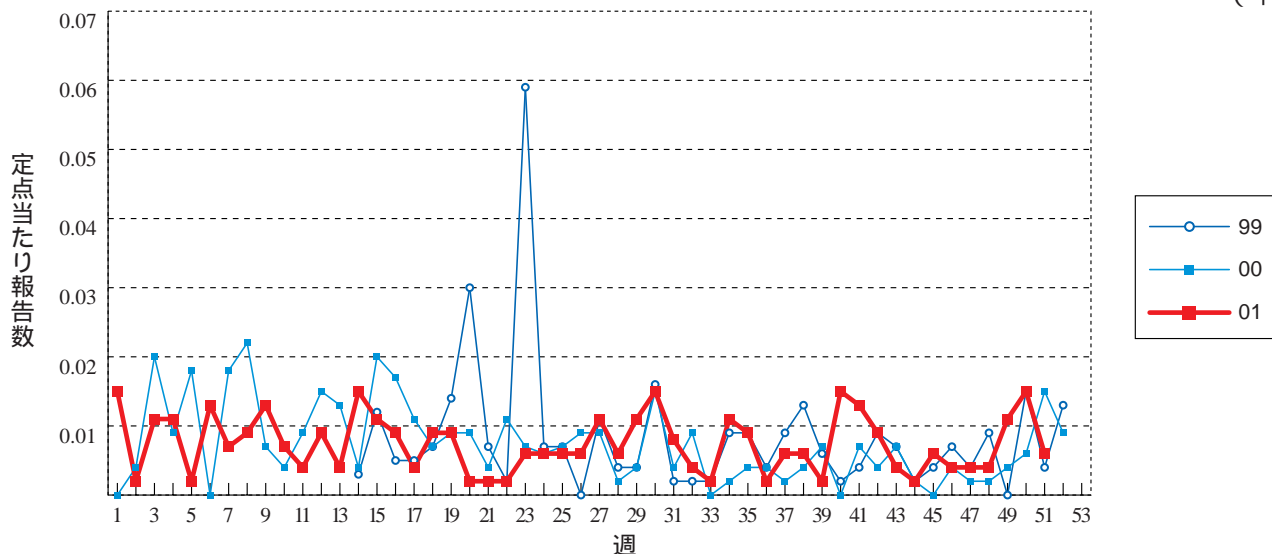
マイコプラズマ肺炎

(年)



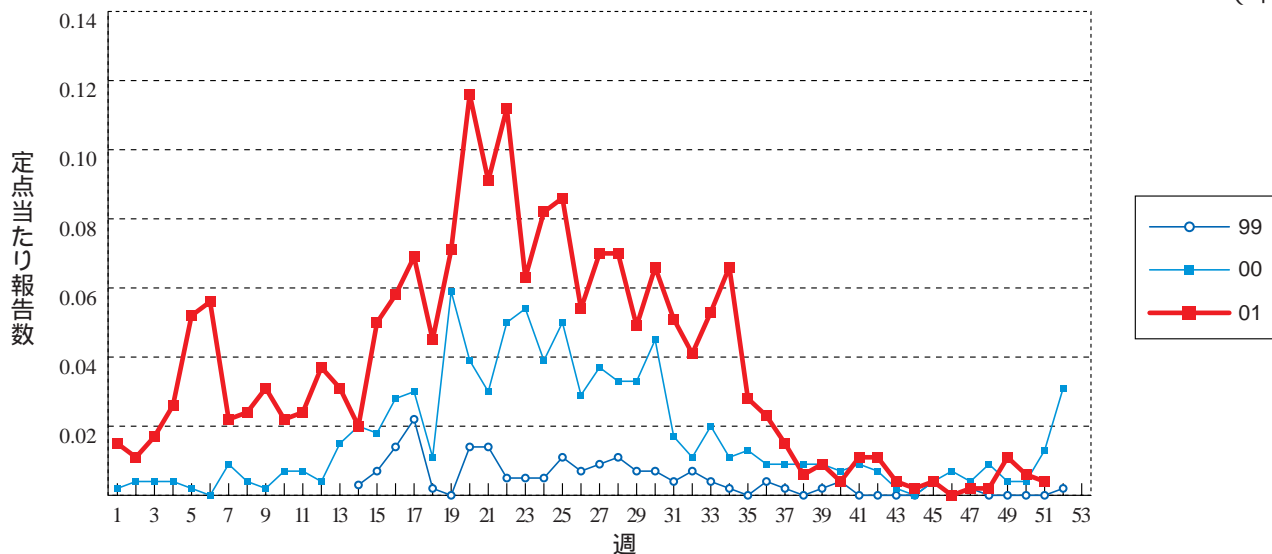
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





51週のデータ

注)表中の報告数は12月27日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年51週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	32	771	-	62	1	21	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	19	-	3	-	-	
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	2	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	1	-	-	
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	13	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-	
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	2	-	-	
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	26	-	-	-	-	
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	35	-	5	-	-	
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	4	132	-	17	-	15	
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	42	-	3	-	3	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	-	-	-	-	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	1	
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	6	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	1	-	-	
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	15	-	-	-	-	
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	16	-	1	-	-	
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	46	-	6	1	2	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	20	-	-	-	-	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	-	
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	4	105	-	7	-	-	
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	37	-	-	-	-	
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	17	-	-	-	
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	40	-	1	-	-	
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	12	-	-	-	-	
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年51週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	8	4235	6	407	-	13	-	-	-	29	-	-	6	876
北海道	-	-	-	-	-	155	-	8	-	11	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	45	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	1	2
岩手県	-	-	-	-	-	80	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
宮城県	-	-	-	-	-	48	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	1	29
秋田県	-	-	-	-	-	60	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
山形県	-	-	-	-	-	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
福島県	-	-	-	-	-	51	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
茨城県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
栃木県	-	-	-	-	-	25	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
群馬県	-	-	-	-	-	86	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	23
埼玉県	-	-	-	-	-	213	-	17	-	-	-	-	-	1	-	-	-	18
千葉県	-	-	-	-	2	366	1	21	-	-	-	-	-	1	-	-	-	12
東京都	-	-	-	-	1	307	2	108	-	-	-	-	-	7	-	-	-	140
神奈川県	-	-	-	-	-	266	-	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	55
新潟県	-	-	-	-	-	35	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	63	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7
福井県	-	-	-	-	-	60	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
山梨県	-	-	-	-	-	17	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
長野県	-	-	-	-	-	59	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
岐阜県	-	-	-	-	-	22	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	57
静岡県	-	-	-	-	1	56	-	5	-	-	-	-	-	4	-	-	-	10
愛知県	-	-	-	-	-	169	-	16	-	-	-	-	-	5	-	-	1	19
三重県	-	-	-	-	-	80	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	44	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	-	-	-	-	94	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
大阪府	-	-	-	-	-	341	-	62	-	1	-	-	-	4	-	-	-	92
兵庫県	-	-	-	-	1	268	2	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	84
奈良県	-	-	-	-	-	57	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
和歌山県	-	-	-	-	-	15	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
鳥取県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
島根県	-	-	-	-	-	94	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	78	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
広島県	-	-	-	-	-	84	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	29
山口県	-	-	-	-	-	47	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
徳島県	-	-	-	-	1	15	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5
香川県	-	-	-	-	-	17	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	51	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
高知県	-	-	-	-	-	18	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	6
福岡県	-	-	-	-	-	141	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50
佐賀県	-	-	-	-	1	94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	91	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
熊本県	-	-	-	-	-	39	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
大分県	-	-	-	-	-	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
宮崎県	-	-	-	-	1	43	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
鹿児島県	-	-	-	-	-	59	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
沖縄県	-	-	-	-	-	28	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年51週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	39	-	-	-	9	1	124	-	42	6	894	-	1	2	132	-	-
北海道	-	2	-	-	-	-	1	7	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	-	5	-	-	-	2	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	-	9	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	24	-	-	-	2	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	3	-	-	-	-	-	1	-	2	-	34	-	-	-	3	-	-
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	5	-	4	-	58	-	-	-	2	-	-
東京都	-	18	-	-	-	5	-	9	-	5	4	358	-	-	1	58	-	-
神奈川県	-	1	-	-	-	3	-	6	-	2	-	79	-	-	-	12	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	1	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-
長野県	-	1	-	-	-	-	-	2	-	2	-	21	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	5	-	-	-	-	-	3	-	1	-	21	-	-	-	2	-	-
愛知県	-	2	-	-	-	-	-	6	-	3	-	43	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5	-	-	-	1	-	-
京都府	-	1	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	16	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	82	-	-	-	15	-	-
兵庫県	-	2	-	-	-	1	-	12	-	3	-	19	-	-	1	5	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	6	-	-	-	1	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	5	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	7	-	-	-	1	-	-
高知県	-	1	-	-	-	-	-	4	-	1	-	2	-	-	-	2	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	10	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	4	-	-	-	2	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成13年51週

	髄膜炎菌性 髄膜炎		先天性風疹 症候群		炭 疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児 ボツリヌス症		梅 毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	1	-	-	9	434	-	46	-	38	-	5	-	-	-	542
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
山形県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	-	-	-	37	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	8
栃木県	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	9
千葉県	-	1	-	-	-	-	-	13	-	3	-	-	-	-	-	-	-	12
東京都	-	2	-	-	-	-	-	8	-	19	-	-	-	-	-	-	-	95
神奈川県	-	1	-	-	-	-	1	8	-	5	-	-	-	-	-	-	-	14
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
富山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	12	-	1	-	-	-	-	-	-	-	12
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
静岡県	-	-	-	-	-	-	1	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
愛知県	-	2	-	-	-	-	1	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	16
三重県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
京都府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	106
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	-	4	-	-	-	-	-	23
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	4
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	1	-	-	-	3
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	1	11	-	-	-	8	-	-	-	-	-	2
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
広島県	-	-	-	-	-	-	-	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	6
高知県	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	12	-	1	-	-	-	4
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	24
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	1	-	-	-	1	-	-	-	4
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大分県	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
宮崎県	-	1	-	1	-	-	1	29	-	-	-	4	-	-	-	-	-	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	3	62	-	-	-	8	-	-	-	-	-	5
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成13年51週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	74	-	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	104	-	14	-	80
北海道	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	5	-	2
青森県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
宮城県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	3
秋田県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
山形県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
栃木県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	3
千葉県	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	3
東京都	-	4	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42	-	3	-	15
神奈川県	-	5	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	2
新潟県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	5
富山県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
石川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3
岐阜県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
静岡県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3
愛知県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	8
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
京都府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1
大阪府	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	2
兵庫県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2
島根県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2
広島県	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	1
山口県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
徳島県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1
佐賀県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
沖縄県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年51週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百日咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	1830	0.39	233	0.08	5109	1.69	45606	15.11	8170	2.71	1134	0.38	1222	0.40	2215	0.73	32	0.01
北海道	8	0.03	34	0.23	531	3.66	549	3.79	429	2.96	48	0.33	49	0.34	93	0.64	-	-
青森県	4	0.06	-	-	46	1.10	220	5.24	131	3.12	12	0.29	31	0.74	24	0.57	1	0.02
岩手県	5	0.08	2	0.05	50	1.35	412	11.14	143	3.86	25	0.68	5	0.14	14	0.38	-	-
宮城県	14	0.14	-	-	93	1.58	1105	18.73	180	3.05	27	0.46	25	0.42	64	1.08	-	-
秋田県	4	0.07	3	0.09	115	3.29	334	9.54	72	2.06	13	0.37	71	2.03	19	0.54	-	-
山形県	4	0.08	1	0.03	190	6.33	542	18.07	141	4.70	2	0.07	20	0.67	25	0.83	3	0.10
福島県	10	0.13	1	0.02	87	1.81	588	12.25	143	2.98	41	0.85	30	0.63	32	0.67	-	-
茨城県	13	0.11	2	0.03	121	1.66	732	10.03	89	1.22	19	0.26	29	0.40	37	0.51	1	0.01
栃木県	9	0.13	4	0.09	95	2.07	920	20.00	104	2.26	1	0.02	30	0.65	41	0.89	-	-
群馬県	208	2.08	5	0.08	100	1.61	789	12.73	231	3.73	6	0.10	5	0.08	40	0.65	-	-
埼玉県	159	0.62	19	0.12	360	2.28	3701	23.42	445	2.82	25	0.16	33	0.21	134	0.85	-	-
千葉県	37	0.20	6	0.05	262	2.06	1943	15.30	360	2.83	31	0.24	55	0.43	94	0.74	1	0.01
東京都	32	0.18	8	0.06	101	0.71	1673	11.78	225	1.58	17	0.12	27	0.19	65	0.46	1	0.01
神奈川県	54	0.16	23	0.11	372	1.81	4023	19.53	451	2.19	101	0.49	73	0.35	202	0.98	-	-
新潟県	6	0.06	15	0.25	196	3.27	1003	16.72	351	5.85	115	1.92	16	0.27	45	0.75	1	0.02
富山県	3	0.06	15	0.52	69	2.38	664	22.90	87	3.00	18	0.62	26	0.90	17	0.59	-	-
石川県	7	0.15	1	0.03	27	0.93	740	25.52	118	4.07	30	1.03	63	2.17	23	0.79	1	0.03
福井県	5	0.16	5	0.23	42	1.91	371	16.86	132	6.00	6	0.27	11	0.50	20	0.91	1	0.05
山梨県	13	0.32	-	-	17	0.68	216	8.64	79	3.16	2	0.08	9	0.36	7	0.28	-	-
長野県	44	0.51	3	0.06	168	3.11	1182	21.89	205	3.80	41	0.76	27	0.50	31	0.57	2	0.04
岐阜県	43	0.58	1	0.02	37	0.79	421	8.96	107	2.28	12	0.26	23	0.49	25	0.53	1	0.02
静岡県	28	0.20	1	0.01	129	1.50	1798	20.91	240	2.79	56	0.65	38	0.44	71	0.83	1	0.01
愛知県	183	0.95	9	0.05	276	1.52	2717	14.93	349	1.92	63	0.35	44	0.24	130	0.71	-	-
三重県	9	0.12	5	0.11	60	1.33	1047	23.27	130	2.89	9	0.20	57	1.27	39	0.87	1	0.02
滋賀県	17	0.33	-	-	19	0.61	192	6.19	58	1.87	29	0.94	19	0.61	14	0.45	-	-
京都府	53	0.42	1	0.01	60	0.79	751	9.88	192	2.53	73	0.96	59	0.78	43	0.57	1	0.01
大阪府	122	0.41	12	0.06	157	0.82	2028	10.56	338	1.76	55	0.29	36	0.19	98	0.51	2	0.01
兵庫県	26	0.13	6	0.05	134	1.05	1973	15.41	447	3.49	8	0.06	65	0.51	90	0.70	3	0.02
奈良県	9	0.16	-	-	20	0.57	477	13.63	76	2.17	9	0.26	14	0.40	19	0.54	-	-
和歌山県	8	0.16	1	0.03	22	0.71	442	14.26	79	2.55	20	0.65	10	0.32	21	0.68	-	-
鳥取県	10	0.34	3	0.16	66	3.47	360	18.95	66	3.47	11	0.58	12	0.63	19	1.00	-	-
島根県	3	0.08	6	0.26	18	0.78	215	9.35	54	2.35	15	0.65	5	0.22	21	0.91	-	-
岡山県	8	0.10	-	-	28	0.52	531	9.83	98	1.81	76	1.41	10	0.19	19	0.35	1	0.02
広島県	16	0.13	12	0.16	84	1.12	1172	15.63	244	3.25	38	0.51	15	0.20	71	0.95	2	0.03
山口県	26	0.43	5	0.10	127	2.59	849	17.33	140	2.86	6	0.12	36	0.73	56	1.14	1	0.02
徳島県	7	0.18	-	-	11	0.48	264	11.48	39	1.70	6	0.26	5	0.22	19	0.83	-	-
香川県	6	0.12	-	-	18	0.56	297	9.28	88	2.75	24	0.75	8	0.25	21	0.66	1	0.03
愛媛県	6	0.09	5	0.13	65	1.67	758	19.44	83	2.13	18	0.46	27	0.69	47	1.21	-	-
高知県	14	0.29	1	0.03	64	2.06	340	10.97	89	2.87	3	0.10	6	0.19	24	0.77	-	-
福岡県	174	0.95	4	0.04	269	2.56	1996	19.01	347	3.30	4	0.04	26	0.25	117	1.11	2	0.02
佐賀県	32	0.82	-	-	59	2.57	274	11.91	80	3.48	1	0.04	6	0.26	19	0.83	-	-
長崎県	26	0.39	7	0.15	31	0.65	467	9.73	108	2.25	4	0.08	23	0.48	29	0.60	-	-
熊本県	27	0.33	3	0.06	96	1.96	849	17.33	134	2.73	3	0.06	10	0.20	47	0.96	1	0.02
大分県	157	2.71	1	0.03	48	1.33	1028	28.56	110	3.06	2	0.06	12	0.33	39	1.08	-	-
宮崎県	75	1.25	-	-	97	2.62	1630	44.05	158	4.27	-	-	5	0.14	48	1.30	2	0.05
鹿児島県	77	0.79	3	0.05	59	0.98	996	16.60	161	2.68	7	0.12	16	0.27	37	0.62	1	0.02
沖縄県	29	0.50	-	-	13	0.38	27	0.79	39	1.15	2	0.06	-	-	5	0.15	-	-

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成13年51週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	23	0.01	187	0.06	140	0.05	6088	2.02	23	0.04	641	1.01	2	0.00	5	0.01	13	0.03
北海道	-	-	4	0.03	32	0.22	238	1.64	-	-	44	1.52	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	1	0.02	13	0.31	72	1.71	1	0.09	19	1.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	2	0.05	2	0.05	85	2.30	-	-	18	1.50	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	3	0.05	-	-	122	2.07	1	0.09	7	0.64	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	106	3.03	-	-	2	0.29	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	147	4.90	-	-	3	0.38	-	-	-	-	1	0.10
福島県	-	-	1	0.02	1	0.02	122	2.54	1	0.08	27	2.25	-	-	-	-	-	-
茨城県	2	0.03	-	-	9	0.12	191	2.62	-	-	50	3.13	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	1	0.02	-	-	83	1.80	-	-	17	1.42	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	3	0.05	-	-	63	1.02	1	0.07	41	2.93	-	-	1	0.10	-	-
埼玉県	1	0.01	15	0.09	5	0.03	179	1.13	1	0.03	31	0.89	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	3	0.02	6	0.05	189	1.49	-	-	39	1.18	-	-	-	-	-	-
東京都	1	0.01	18	0.13	4	0.03	137	0.96	1	0.07	16	1.14	-	-	-	-	2	0.08
神奈川県	3	0.01	5	0.02	-	-	349	1.69	1	0.02	38	0.90	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	1	0.02	222	3.70	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	7	0.24	4	0.14	161	5.55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	2	0.07	1	0.03	287	9.90	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	9	0.41	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	56	2.24	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	0.02	368	6.81	-	-	14	1.40	-	-	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	-	-	7	0.15	87	1.85	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	3	0.03	16	0.19	196	2.28	-	-	17	0.85	-	-	-	-	2	0.25
愛知県	3	0.02	3	0.02	12	0.07	292	1.60	-	-	15	0.43	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	0.02	-	-	90	2.00	-	-	14	1.17	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	29	0.94	-	-	4	0.57	-	-	1	0.14	-	-
京都府	-	-	2	0.03	-	-	102	1.34	-	-	5	0.28	-	-	-	-	-	-
大阪府	2	0.01	15	0.08	2	0.01	184	0.96	1	0.02	34	0.65	-	-	-	-	2	0.17
兵庫県	-	-	2	0.02	-	-	126	0.98	4	0.11	22	0.63	-	-	1	0.07	-	-
奈良県	-	-	-	-	2	0.06	54	1.54	-	-	3	0.33	-	-	-	-	2	0.33
和歌山県	-	-	2	0.06	3	0.10	71	2.29	-	-	-	-	-	-	2	0.18	-	-
鳥取県	-	-	-	-	4	0.21	12	0.63	-	-	-	-	1	0.20	-	-	1	0.20
島根県	-	-	-	-	-	-	38	1.65	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
岡山県	1	0.02	4	0.07	-	-	109	2.02	-	-	9	0.75	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	3	0.04	-	-	124	1.65	3	0.15	20	1.00	-	-	-	-	1	0.05
山口県	1	0.02	10	0.20	-	-	33	0.67	-	-	5	0.56	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	70	3.04	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	1	0.03	42	1.31	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	6	0.15	-	-	205	5.26	1	0.14	12	1.71	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	2	0.06	-	-	15	0.48	-	-	3	1.00	-	-	-	-	-	-
福岡県	6	0.06	18	0.17	8	0.08	248	2.36	-	-	22	0.92	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	23	1.00	1	0.04	74	3.22	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	1	0.02	50	1.04	7	0.70	12	1.20	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	18	0.37	1	0.02	50	1.02	-	-	12	1.33	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	1	0.03	3	0.08	66	1.83	-	-	2	0.40	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	133	3.59	-	-	21	5.25	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	6	0.10	-	-	193	3.22	-	-	12	2.00	-	-	-	-	-	-
沖縄県	1	0.03	3	0.09	-	-	209	6.15	-	-	8	0.80	-	-	-	-	1	0.14

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成13年51週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	120	0.25	3	0.01	2	0.00
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	8	0.40	-	-	-	-
宮城県	11	0.92	-	-	-	-
秋田県	8	1.14	-	-	-	-
山形県	4	0.40	-	-	-	-
福島県	2	0.29	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.14	-	-	-	-
群馬県	1	0.10	-	-	-	-
埼玉県	3	0.33	2	0.22	-	-
千葉県	7	0.54	-	-	-	-
東京都	1	0.04	-	-	2	0.08
神奈川県	-	-	-	-	-	-
新潟県	5	0.36	-	-	-	-
富山県	1	0.20	-	-	-	-
石川県	2	0.40	-	-	-	-
福井県	2	0.33	-	-	-	-
山梨県	3	0.30	-	-	-	-
長野県	4	0.36	1	0.09	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	2	0.25	-	-	-	-
愛知県	6	0.46	-	-	-	-
三重県	1	0.11	-	-	-	-
滋賀県	6	0.86	-	-	-	-
京都府	2	0.33	-	-	-	-
大阪府	4	0.33	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-
奈良県	1	0.17	-	-	-	-
和歌山県	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	1	0.20	-	-	-	-
島根県	4	0.50	-	-	-	-
岡山県	6	1.20	-	-	-	-
広島県	2	0.10	-	-	-	-
山口県	1	0.11	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	3	0.50	-	-	-	-
高知県	9	1.13	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	1	0.17	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	3	0.20	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	1	0.14	-	-	-	-
鹿児島県	1	0.08	-	-	-	-
沖縄県	1	0.14	-	-	-	-

感染症週報 第3巻、第51号 平成14年1月11日発行
発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
TEL：03-5285-1111
FAX：03-5285-1129

URL：http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
<国立感染症研究所 感染症情報センター>
http://www.mhlw.go.jp/
<厚生労働省>
http://www.forth.go.jp/
<旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所)>

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。